

草地学特論 (2単位)

担当者氏名 菅野 勉

◆学習・教育目標

世界の永年草地は地球の全陸地面積の約 1/4 を占め、20億頭以上の家畜を養っている。人類はそれらの家畜から摂取脂肪の約50%を、摂取エネルギーの約15%をいただいております。草地は人類にとって貴重な資源である。草地学はこの領域に関わる、多くの学問分野を内包した学際的分野である。ここでは、草地研究の基礎をなす文献資料をもとに、講義、論議を行う。また、近年の草地・飼料作物の研究成果について、レクチャーする。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

緑地植物 _____ 多面的機能 _____ 緑地土壌 _____ 緑地創出 _____
 緑地保全 _____ 家畜飼養 _____ 飼料作物 _____ 飼料イネ _____

◆授業の進行等について

	テーマ	内 容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1	緑地と文明 (第1~2週)	1. 緑地の機能を学ぶとともに、緑地環境を文明の興亡との関連で考える。	1. 緑地環境の重要性を文明的に把握する。
2	緑地の植物 (第3~4週)	2. イネ科植物、マメ科植物、緑化用草花について学ぶ。	2. 緑地を構成する植物の特性について学ぶ。
3	緑地創出と維持 (第5~6週)	3. 緑地の造成及び管理・利用法について学ぶ。	3. 緑地造成手法の選択法や維持管理方法について学ぶ。
4	緑地を活用した家畜生産 (第7~8週)	4. 緑地を活用した家畜の放牧技術や公共草地の活用方法について学ぶ。	4. 緑地を活用した家畜生産法について学ぶ。
5	熱帯草地 (第9~10週)	5. 熱帯における草地管理法及び放牧管理法について学ぶ。	5. 主に亜熱帯草地の特性や家畜生産法について学ぶ。
6	飼料作物 (第11~14週)	6. 飼料作物の栽培と利用について学ぶ。	6. 我が国の飼料生産研究の最近の成果を学ぶ。
7	飼料イネ (第15週)	7. 飼料イネの品種や栽培法を学ぶ。	7. 飼料イネの現状と可能性について考える。

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名/著者/発行所 (発行年)

緑地環境学 (第2刷) / 小林裕志・福山正隆 (編) / 文永堂出版 (2002)

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名/著者/発行所 (発行年)

目で見ると 飼料作物のすべて / 山下太郎編 / デーリィマン社

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウエイト)

毎時間講義中に行う質疑応答やディスカッション、レポート等により総合的に評価する。

◆その他受講上の注意事項

講義中での積極的な発言を求める。隔週で2講義ずつの講義となるため、上記進行表の各テーマ2週分が1日の2講義に相当する。

